

第4回 鳴瀬川総合開発環境検討委員会 技術的助言

日 時 : 令和元年11月25日(月) 10:00~12:00

場 所 : TKP 仙台南町通カンファレンスセンター (8階) ホール8A

1. 全体的事項

(1) 調査地区の設定

NO	意 見	回答及び対応方針
1	・資料1のp3(1)の意見に対する見解について、流速や継続時間が環境にどのような影響を与えることを想定して記載したのか。また、整備計画流量を用いた理由を説明して欲しい。	流速や継続時間によって河岸植生の変遷に変化が生じる可能性があるとして想定されたため、評価書に流速や継続時間の変化の程度を整理した。 また、1/2~1/50洪水規模での予測の結果、冠水頻度の変化が小さく、流速や継続時間による影響も小さいと考えられ、整備計画流量における変化を整理した。
2	・環境への影響評価の考え方として、冠水頻度や物理環境の変化が小さいという説明を記載するとよい。	ご指摘を踏まえ、記載方法を検討し、評価書の該当箇所を修正する。

2. 個別的事項

(1) 動物

NO	意 見	回答及び対応方針
1	・p.6(4)イのトウホクサンショウウオ及びクロサンショウウオに関する見解について、成体の生息環境と産卵場の改変の関係が理解しにくい。「広く生息している」の記載の後に卵嚢を移植する理由を記載してはどうか。	ご指摘を踏まえ、記載方法を検討し、評価書の該当箇所を修正する。

(2) 植物

NO	意見	回答及び対応方針
1	・宮城県知事の意見を踏まえた更新のうち、濁水流入防止措置（沈砂池）に誤記があるので修正すること。	ご指摘を踏まえ、評価書の該当箇所を修正する。
2	・シロヤナギ群落を特筆している理由を「事業者の見解」に記載したほうが分かりやすい。	ご指摘を踏まえ、宮城県 RDB で重要な群落に指定されていることを評価書の該当箇所に記載する。
3	・植物の移植地点を記録する目的がわからないので、理由を「評価書」に記載してはどうか。	ご指摘を踏まえ、自生の個体と判別できるように記載方法を検討し、評価書の該当箇所を修正する。

(3) 生態系

NO	意見	回答及び対応方針
1	・植生の回復に侵略的外来種を用いないとしているが、断言できないと思われるため、記載を修正すべき。 ・法面の状態（斜度、緑化面積等）によっては、法面保護を在来種のみで行うというのは困難ではないか。条件によっては、早期緑化が必要なため、やむを得ず外来種を使用する場合もある。	ご指摘を踏まえ、記載方法を検討し、評価書の該当箇所を修正する。

3. その他 今後の事業に対する意見

NO	意見
1	・最近の洪水による土砂崩落の大きな災害で、ダムの効用は見直されている。本事業については、より一層コスト削減に努める必要がある。但し、コスト削減を行った場合は生態系への影響があると困るため、コスト、工事期間、環境への影響を全て総合的に勘案し、迅速に工事を進めて完成していただきたい。
2	・ダムをつくるに当たって、大量にセメントを使用するが、二酸化炭素（CO2）排出の一つの原因となる。本事業では規模の大きな発電所を計画し、異常気象の原因である CO2 を排出削減のため、努力していただきたい。
3	・ダム直下では特に水量が少ない時期にヘドロが礫の表面に付着し、下流の砂礫地でも、ヘドロまたは草で覆われ本来の河原がなくなる心配がある。ダム事業による生態系への影響の低減を予めどうするか、ダム工事までの間に事前の予防対策にも努めていただきたい。(由井委員長)
4	・漆沢ダムでは、従来臭いがつくプランクトンが発生しているため、事業者としても今後の検討事項としていただきたい。